



「ヒト・カネ・コト」が持続するローカルからの変革の要諦は覚悟と決断力

日本郵政会長

澤田浩

本書には内容を指し示す

長いサブタイトルが付されている。「ヒト・カネ・コトが持続するローカルからの変革」。変革の芽を探しに、育てに、つなぐために、著者は日夜、日本全国を飛び回っている。そして地域活動のコーディネートをし、アドバイスを続けている。また、行政機関と連携した食からの地域づくりのプロモーションなども手掛ける。その成果の一端が詰まっている。本書では、地域の歴史や文化、技術などの総合力を結集し、優れたインバウンド（外国人観光客誘致）戦略、海外流通も視野に入った市場開拓を行っている内外の「田舎」を紹介している。

海外からの観光客が多い国ランキング（16年）で5位のイタリアは16位の日本を大きく引き離している。もちろん、自然・歴史遺産の豊富さもあるが、イタリアには実に様々なインバウンドが試みられている。例えば、「アグリツーリズモ」（農業と旅行を組み合わせたもの）も年々拡大している。田



舎活性化のお手本ともいえる。これを手始めに、若者を惹きつける

様々な地域や国の試みを紹介している。長野県川上村の「味覚の授業」の実践、八王子・磯沼ミルクファームの試み、福井の観光と蕎麦ブランド——大野在来そばの浸透など。他にも中山間の農村のインバウンドの成功モデル、山形県飯豊町の農家民宿等々、多彩な事例が続く。新しい試みが各地で次々と動き始めている。グローバルになった今だからこそ、ローカルの力が問われている。地方創生の手掛かりになる具体策が詰まった一冊である。

## 田舎の力が未来をつくる！

金丸弘美著

合同出版刊 定価1,600円（税別）